

教育研究活動報告書

ふりがな 氏名	たかはし ただお 高橋 忠夫	所属・職名	健康福祉学部・健康栄養学科・教授・ 副学長・健康栄養学科長
専門領域	細胞生物学・環境生物学・原生 生物学	学位称号	理学博士1984(昭59)
最終学歴	1977(昭52) 広島大学大学院理学研究科博士課程動物学専攻単位取得満期退学		
資格・免許等	高等学校教諭一級普通免許(理科) (広島県) (昭四五高一普 第一三二号)		
教育上の能力に関する事項			
担当科目	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学部：環境生物科学(平成20年度まで)、環境と生命科学(平成20年度まで)、環境保健学(平成21年度まで)、環境保健学実験(平成21年度まで)、生命のしくみ(平成21年度から)、生物と環境(平成21年度から)、公衆衛生学Ⅰ(平成22年度から)、公衆衛生学実習(平成22年度から)、健康栄養学演習Ⅰ、健康栄養学演習Ⅲ、卒業研究・演習 ・ 大学院：自然環境科学特論、健康福祉総合演習、特別研究 		
教育方法の実践例 教材の開発 教育改善活動等	<p>1. 教育方法の実践例</p> <p>(1) Power Pointを用いたAVシステムによる授業展開(2006年度から) 「環境保健学」、「環境生物科学」、「環境と生命科学」、「環境保健学」、「生命のしくみ」、「生物と環境」、「公衆衛生学Ⅰ」の授業において、資料としてのプリントを配布すると同時に同一の内容を解説するためのスライドをPower Pointを用いて、作成し、内容を、アニメーション等を利用して分かりやすく説明する授業を展開している。その場合、配布したプリントには、意図的に不完全な部分を設け、その部分は、Power Pointの画像を見て書き込ませる工夫をした。</p> <p>(2) 質問用紙を利用した授業展開(2004年度から) 佐賀短期大学の「くらし環境学科」において、「分子から見た環境生物学」の授業を行った。この授業は、少人数であるので、全学生に目の届く授業が展開できるのであるが、さらにきめ細かく学生の理解度を向上させるために、講義の終了10分前から、全員に質問用紙を配布し、その日の授業内容について、質問、理解できなかったところ、その他、感想など自由記述をさせた。これによって、学生の理解度を把握し、授業内容の改善や、程度の見直しを行うようにした。この方法を、平成18年度からすべての授業で採用し、学生が書いた質問に対しては、次の授業の導入部において解説を行った。この方法は、学生による授業アンケートの回答を見ると、おおむね好評であった。</p> <p>(3) 小テストを組み込んだ授業(1998年度から) すべての担当科目(実験及び演習は除く)において、事前予告無しで、小テストを実施し、学生の受講態度に緊張感を持たせるようにした。特に、環境保健学では、単元ごとに国家試験と同一の形式で小テストを繰り返し実施し、理解度の向上を図った。それら小テストの成績は、学期末の試験と合わせて成績評価に利用している。</p> <p>2. 教材の開発</p> <p>(1) 環境保健学資料集作成(2006年度から毎年改定作業を行っている)。この資料集は、平成22年度より「公衆衛生学Ⅰ資料集」として改定して使用している。</p> <p>(2) 環境保健学実験の手引き作成(2004年度から毎年改定作業を行った)</p> <p>(3) 環境保健学問題集作成(2006年度から毎年改定作業を行っている)。これは、現在、公衆衛生学Ⅰ問題集として引き継がれている。その内容は、健康栄養学演習Ⅰおよび健康栄養学演習Ⅲでも活用するとともに、国家試験対策講座でも利用している。</p>		
職務上の実績に関する事項			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 副学長(平成19年度から現在) ・ 健康福祉学部長(平成19年度から22年度) ・ 健康栄養学科長(平成23年度から現在) ・ FD委員会委員(平成19年度から委員長) ・ 倫理委員会委員(平成19年度から21年度まで委員長) 			

- ・動物実験委員会委員（平成19年度から21年度まで委員長）
- ・企画委員会委員、その他、副学長が当職となっている委員会委員
- ・食育サポートセンター運営委員会委員長（平成20年度から現在）
- ・入試業務（平成20年度まで：生物I、理科総合B（生物分野）の出題と採点、大学院の英語の出題と採点）

研究業績等に関する事項

《平成19年度～平成23年度》

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行所・発表雑誌等 又は発表学会等の名称	発行又は 発表の年月
【著書】 1. 土壌の原生生物・線虫群集 ― その土壌生態系での役割 ―)	共著	日本土壌肥料学会編 (博友社)	2009年
【学術論文】 1. 繊毛虫ゾウリムシの個体群成長に対する餌密度の影響	共著	西九州大学健康福祉学部 紀要	2008年
2. 原生生物や線虫からみた土壌生態系の解明と活用	共著	日本土壌肥料学会雑誌	2009年
【学会発表】 1. 土壌繊毛虫の動画および静止画データベースの構築;ユーザーフレンドリーなデータベースを目指して	共著	日本動物学会九州支部 60 回大会 (福岡市、九州産業大学)	2007年5月
2. Soil ciliate diversity in upland soil studied by molecular and culturing approaches.	共著	第23回日本微生物生態学会 (松山市、愛媛大学)	2007年9月
3. 土壌繊毛虫の動画および静止画データベースについて	共著	日本原生動物学会第40回 大会 (富山市、富山大学)	2007年11月
4. 土壌繊毛虫の動態とデータベース	単著	農水省交付金プロジェクト研究「有機農業成果発表会」(東京都)	2008年3月
5. 土壌繊毛虫の種組成と個体数およびバイオマスのMPN-SIPs法による解析	共著	日本動物学会第79回大会 (福岡市、福岡大学)	2008年9月
6. ボウフラの死体から発見された繊毛虫テトラヒメナは未知種らしい	共著	日本動物学会九州支部第 62回大会 (宮崎市、宮崎大学)	2009年5月
7. 水耕液中の大腸菌生存に及ぼす原生動物の影響	共著	日本土壌肥料学会九州支 部春季例会 (宮崎市、宮崎大学)	2010年4月
【その他】 1. データベース:「動画繊毛虫図鑑」(Web版)公開	共著	URL: http://senmou.nisikyu-u.ac.jp/tdb/	2007年7月 より公開中
2. 家畜スラリー投入が土壌繊毛虫相およびそのバイオマスに及ぼす影響評価「農水省交付金プロジェクト	単著	(独)農業・食品産業技術総合研究機構(中央農	平成20年3月

<p>研究：有機農業の土壌環境への影響評価と環境保全効果の検証」</p> <p>3. 農水省交付金プロジェクト研究：有機農業の土壌環境への影響評価と環境保全効果の検証」成果集 第1篇 有機性資源利用の適正化に向けた新しい土壌生物相評価法の開発 第2章 家畜スラリー投入が土壌繊毛虫相およびそのバイオマスに及ぼす影響評価</p>	<p>単著</p>	<p>業総合研究センター)</p> <p>(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 (中央農業総合研究センター)</p>	<p>平成 20 年 3 月</p>
<p>研究助成等</p>	<p>平成 19 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 (農水省交付金プロジェクト) (受託研究費) 210 万円 <p>平成 21 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 10 万円 (課題番号 : 21310024) <p>平成 22 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 5 万円 (課題番号 : 21310024) (継続分) <p>平成 23 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 2 万円 (課題番号 : 21310024) (継続分) 		
<p>学 会 及 び 社 会 に お け る 活 動 等</p>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本動物学会会員 (1968 年から会員、2010 年度から 2011 年度 佐賀県委員) ・ 日本原生動物学会会員 (1969 年より会員、2006 度から評議員) ・ The International Society of Protistologists 会員 ・ 日本生物教育学会会員 ・ 佐賀自然誌研究会会員 ・ 独立行政法人農業技術研究機構交付金プロジェクト研究「有機農業の土壌環境への影響評価と環境保全効果の検証」(研究期間 5 年)の委託研究、課題番号 1202「家畜スラリーの投入が土壌繊毛虫相およびそのバイオマスに及ぼす影響評価」を担当 (2007(平 19)年度まで) ・ 「大学コンソーシアム佐賀」設置準備委員会委員 (2007 年度) ・ 「大学コンソーシアム佐賀」推進委員会委員 (副委員長) (2007 年度から現在) 			